

進化を続ける船びき網漁業者による自主的な資源管理

漁業生産研究所 海洋資源グループ

イワシ類を漁獲する船びき網漁業を営む団体は、イワシ類の稚魚（シラス）を漁獲する“しらす連合会（通称）”と親魚を漁獲する“ぱっち網漁業者組合”があります。両団体は当グループの調査研究結果を活用し、協力して限りある資源の有効利用を探索しており、現在も進化を続けています。

1 春季の内湾禁漁【水試が過去に提案】

春になると外海から伊勢・三河湾へカタクチイワシの親が来遊し、産卵します。ぱっち網漁業者は、内湾での操業を自粛して産卵親魚を保護しており、本研究所による調査（4～5月）で、内湾には今年も多くの卵や仔魚が確認されています（図1）。

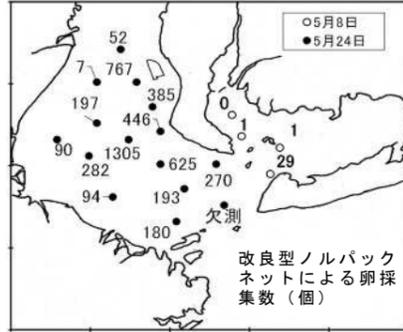


図1 カタクチイワシ卵の採集数

2 内湾禁漁の解禁協議【初の試み！】

5月31日、漁業者自らが解禁協議開催を企画し、本研究所に集まり、内湾の解禁時期やぱっち網の操業開始時期等について話し合いました。過去にイカナゴ漁では解禁協議が行われていましたが、イワシ漁では初の試みとなりました。シラスが漁獲サイズに至る前に操業を始めてしまうと、生き残りを悪くしてしまう可能性があるため、漁業者から「内湾のシラスの大きさを確認し、成長を予測して解禁日を決めてはどうか。」との提案があり、6月6日に採集調査を行うこととなりました。

3 採集調査（カイトネット調査）【初の試み！】

仔魚採集用のカイトネットにより採集調査を実施しました。その結果、漁獲サイズに達したシラスは全体の6%と少ないことがわかり、本研究所から漁獲サイズになる予測日や区域を区切った操業等を漁業者へ提案しました（図2）。これを受け、シラス漁業者は内湾禁漁を当面継続することとしました。

今後も、自主的な資源管理に積極的に取り組む本県漁業者に対し、効率的、効果的な操業方法を提案し、持続的な水産業の推進を図っていきます。

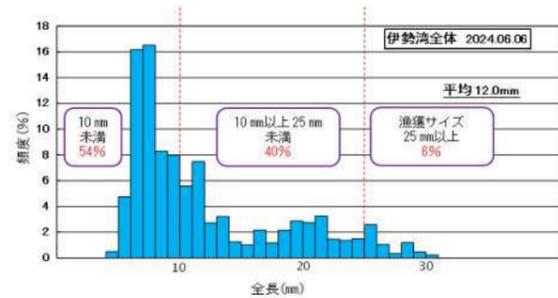


図2 カイトネットで採集されたシラスの全長組成（6月6日）

アマゴ遊漁の拡大を目指して

内水面漁業研究所 冷水魚養殖グループ

最近の河川における釣りはアマゴ（図3）などの渓流魚に人気があり、特に若い釣り人のルアー釣りブームによりアマゴ遊漁者数が増加しています。



図3 釣り上げられたアマゴ

河川の漁協は、アマゴの資源を増やし経営を安定させるため、種苗放流よりも安価で効果が高い「発眼卵放流※」に取り組んでいます。

当グループではこの取組の効果を上げるため、寒狭川中部漁協管内において、水温（発眼期 14.4℃以下、ふ化期 11.7℃以下）、水深（5～30cm）、流速（5～30cm/秒）、川底の礫（粒径 1～6cm）等、アマゴの産卵や稚魚の生息に適した環境の調査を行い、発眼卵放流に適した場所を評価しました。その結果、島田川や栃沢川、巴川（大和田川）の上流域やそれらの支流が発眼卵放流に適した場所であることが分かってきました（図4）。

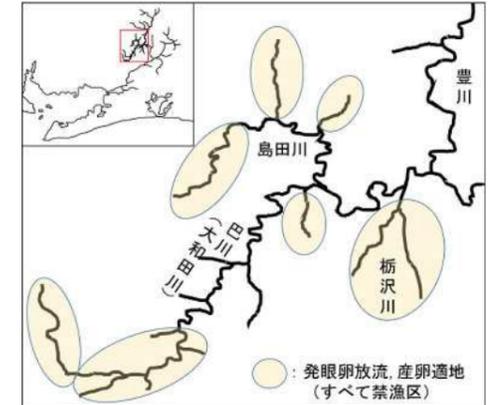


図4 寒狭川中部漁協管内における適地

今後、調査結果に基づき、発眼卵放流に適した場所に発眼卵を放流して、その後のふ化状況や稚魚の生き残り、成長等を把握していきます。

※発眼卵（卵の中に眼ができた状態）を川底の礫の中に埋めたり、カゴの中に收容して放流する方法

藻類貝類養殖技術修練会を開催します

本場 企画普及グループ

水産試験場では、のり養殖業やあさり漁業を営んでいる漁業者の方を対象に、新技術の習得を目的とした「藻類貝類養殖技術修練会」を開催しています。

本年度は下記のとおり開催しますので、多数のご参加をお待ちしています。

記

- 1 日時：令和6年7月16日（火）午前10時30分から午後3時50分まで
- 2 場所：アイプラザ半田 小ホール（愛知県半田市東洋町1丁目8） 電話（0569）23-2255
- 3 講座：
 - (1)「令和5年度ノリ流通の概要と今後の見通し」（愛知県漁連海苔流通センター 業務部次長 早川明宏）
 - (2)「ノリ養殖における課題と対策～食害と貧栄養問題を取り上げて～」(愛知県水試 主任研究員 和久光靖)
 - (3)「ノリ養殖における健苗育成について」(水産大学校 生物生産学科 准教授 阿部真比古)
 - (4)「下水道管理運転に係る効果調査について」(愛知県水試 主任研究員 柘植朝太郎)
 - (5)「アサリの密度効果からみた漁場別の最適な移植について」(愛知県水試 技師 進藤蒼)

